

学校安全の取組

群馬県教育委員会 健康体育課

学校安全・給食係 松嶋 隆広

令和7年12月16日(火)

2024 年 都道府県別ランキング・自転車通学時の事故件数 前年に比べ、中学・高校ともに減少傾向

中学生 ワースト 3 群馬県・香川県・栃木県
高校生 ワースト 3 群馬県・静岡県・愛知県

調査トピックス

① 2024 年都道府県別 通学時自転車事故件数ランキング

- 全国の通学時の事故件数は減少傾向
- 中学生 1 万人当たりの事故件数ワースト 1 位「群馬県」、2 位「香川県」、3 位「栃木県」
- 高校生 1 万人当たりの事故件数ワースト 1 位「群馬県」、2 位「静岡県」、3 位「愛知県」

② 2024 年通学時自転車事故の加害者(第一当事者)率ランキング

- 中高生ともに、約 2 割の学生は通学時自転車事故の加害者である
- 中学生では、加害者(第一当事者)ワースト 1 位「東京都」、2 位「栃木県」、3 位「兵庫県」
- 高校生では、加害者(第一当事者)ワースト 1 位「東京都」、2 位「栃木県」、3 位「兵庫県」

※中学生について全体の自転車事故件数が 10 件以下の県が 7 つあり、これらを除いて順位を出しています
(これらの県は、件数が少なく、割合を比較するのに適当でないため)

③ 通学時自転車事故の状況

- 通学時自転車事故の相手方は中高生ともに 8 割強は自動車
- 全国で通学自転車の事故時にヘルメット未着用の高校生は 9 割弱
- 高校生の通学自転車の事故時ヘルメット着用率トップは「愛媛県」の 91.7%

④ 通学時の事故発生場所

- 中高生ともに交差点内が 7 割以上

交通安全

令和7年度公立学校（園）の交通事故の現状（令和7年4月～7月）

1 事故発生状況

区 分 \ 校 種		幼稚園 こども園	小学校	中学校	高等 学 校		特別支援 諸学校	合計
					全 日 制	定 時 制		
1 学期件数		0	58	210	393	15	19	695
2 学期件数								
3 学期件数								
合計件数		0	58	210	393	15	19	695
人 数	男 子	0	47	134	276	13	12	482
	女 子	0	11	76	117	2	7	213
	計	0	58	210	393	15	19	695
	前 年	1	93	195	427	18	6	740
	増 減	-1	-35	15	-34	-3	13	-45
死 亡 人 数	男 子	0	0	0	0	0	0	0
	女 子	0	0	0	0	0	0	0
	期 計	0	0	0	0	0	0	0
	前 年	0	0	0	0	0	0	0

交通安全

令和7年度公立学校（園）の交通事故の現状（令和7年4月～7月）

2 登下校等別事故発生状況（人数）

校 種 ／ 区 分	幼 小 稚 こ 園 ど 園 も	小 学 校	中 学 校	高等学校		特 別 支 援	合 計
				全	定		
登校中	0	16	94	262	6	15	393
下校中	0	11	79	102	5	2	199
管理下	0	2	5	4	0	0	11
その他	0	29	32	25	4	2	92

交通安全

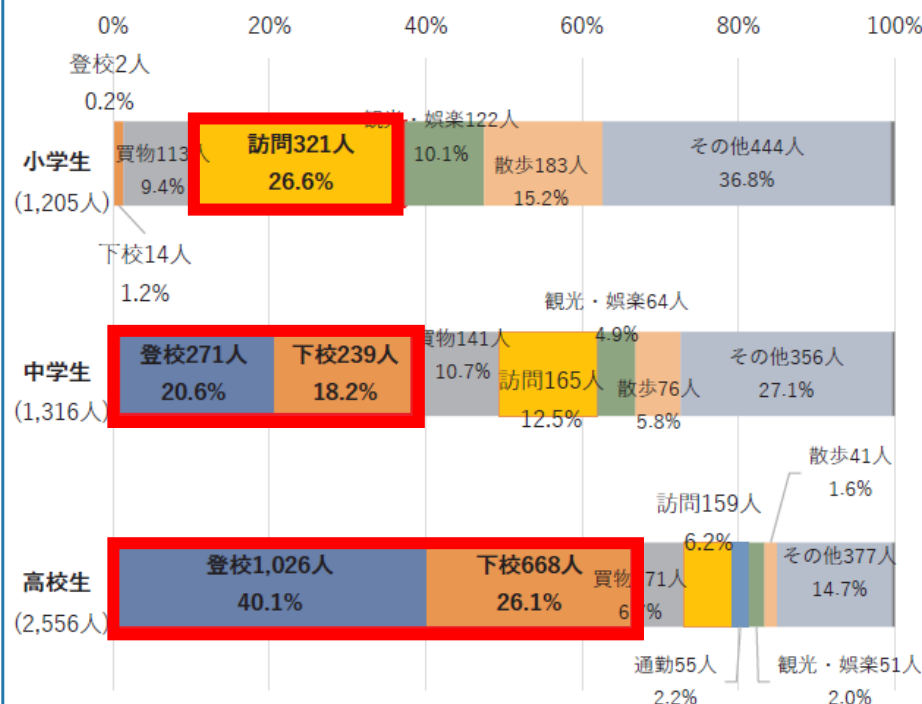
自転車の交通事故の特徴（小学生～高校生）

通行目的別の交通事故の特徴

- 小学生は親類、友人宅等他家を訪れることを目的とする「訪問」が最多。

- 中学生・高校生は「登校・下校」が最多。

通行目的別自転車乗車中の死者・重傷者数（R2～R6合計）



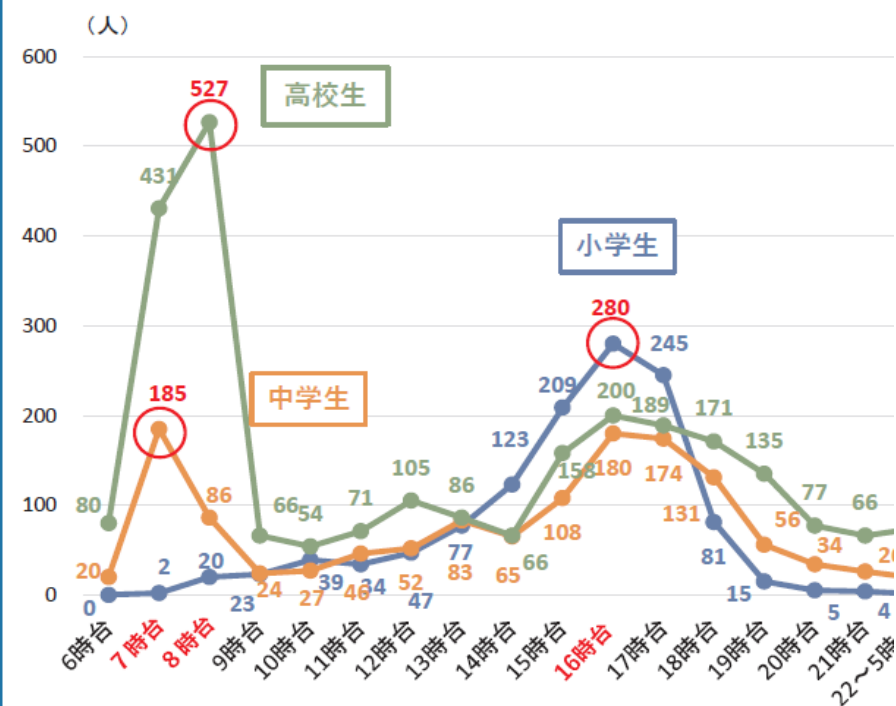
(注) ・単位未満は四捨五入してあるため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合もある。

時間帯別の交通事故の特徴

- 小学生は「16時台」が最多。

- 中学生・高校生は「登校」時間帯に発生が集中し、中学生は「7時台」、高校生は「8時台」が最多。

時間帯別自転車乗車中の死者・重傷者数（R2～R6合計）



交通安全

16歳になる、みなさんへ これからの自転車利用方法について

みなさんは進学などで、自転車の利用が多くなる年頃です。
これからは大人と同じ自転車の乗り方が求められます。
次のことに気をつけて、安全に自転車を利用してください。



自転車特有の交通事故に注意！



自転車の違反でも反則切符が適用になります！ ～ 16歳から対象です ～

- ・道路交通法が改正され、令和8年4月1日から自転車の交通違反でも、反則切符が適用されます。
- ・違反をして反則切符が交付されると、反則金を納付することになります。
(対象になる自転車の交通違反と反則金は裏面をご確認ください。)

事故に備えて自転車保険に加入しましょう！

- ・群馬県内で自転車に乗る方は、自転車保険に加入しなければなりません。未成年は、その保護者に加入が義務づけられています。
- ・ご家族に自転車保険の加入状況を確認して保険に加入をしていなければ、必ず加入しましょう。

自転車事故の高額賠償事例
9,521万円
(平成25年7月、神戸地方裁判所)

群馬県警察

自転車交通違反の反則金

以下は、令和8年4月1日から適用される自転車交通違反の反則金です。
対象になる交通違反は、113種類あるため、主要な違反を抜粋しました。

主な自転車の交通違反と反則金（令和8年4月1日～）

携帯電話を使用しながら自転車を運転する行為
違反名：携帯電話使用等（保持）
反則金：12,000円

自転車で信号無視をする行為
違反名：信号無視
反則金：6,000円

一時停止をしないで交差点に進入
違反名：指定場所一時不停止等
反則金：5,000円

道路標識
道路標示

自転車で歩道の歩道通行ルール

自転車では道路右側を通行したり、歩道を走行する行為
違反名：通行区分違反
反則金：6,000円

※注釈※
自転車は車道通行が原則ですが、条件によっては、普通自転車でも歩道を通行することができます。詳しくは右の「自転車歩道通行ルール」をご覧ください。

1. 歩道を通行できるとき
①道路標識・道路標示で歩道を通行することができるとされている
②13歳未満若しくは70歳以上又は一定の身体障害を有する方
③車道又は交通の状況に照らして、自転車の通行の安全を確保するため、自転車が歩道を通行することがやむを得ないとき

2. 歩道通行のルール
①歩道の中央から車道寄りの部分を徐行し、歩行者の通行を妨げることとなるときは、一時停止をしなければならない
②「普通自転車歩道通行指定部分」が設けられていて、歩行者がいない場合は、歩道の状況に応じた安全な速度と方法で進行できる

車差し運転やイヤホンで周囲の音が聞こえないような状態で自転車を運転するなど、群馬県の公安委員会が定められた遵守事項に違反した場合
違反名：公安委員会遵守事項違反
反則金：5,000円

横断歩道を横断中の歩行者を妨害する行為
違反名：横断歩行者等妨害等
反則金：6,000円

夜間、自転車を無灯火で走行する行為
違反名：夜間のライト点灯義務違反
反則金：5,000円

自転車で並進する行為
違反名：並進禁止違反
反則金：3,000円

自転車で2人乗りをする行為
違反名：軽車両乗車積載制限違反
反則金：3,000円

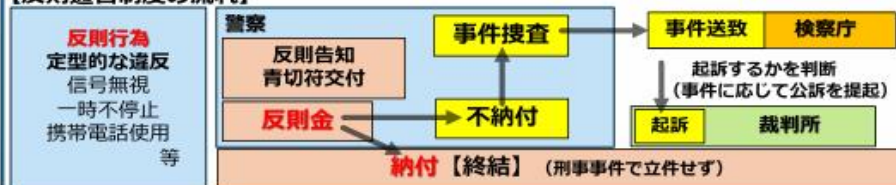
取締りの基本的な考え方

○自転車の交通違反の取締りは悪質・危険な行為が対象です。
○単に歩道を通行しているといった違反だけでは、これまでと同様に「指導警告」が行われるなど、基本的に取締りの対象になることはありません。
※悪質・危険な行為とは、違反をして歩行者を驚かせたり、立ち止まらせた場合や警察官の警告に従わないで違反を継続した場合等です。

交通反則通告制度とは

運転者がした一定の道路交通法違反につき、違反者が警察の通告を受けて反則金を納付した場合は、公訴が提起されない制度

【反則通告制度の流れ】



交通安全

高校生のみなさんへ

自転車特有の交通事故に注意してください



自転車の違反でも反則切符が適用になります

- ・道路交通法が改正され、令和8年4月1日から自転車の交通違反でも、反則切符が適用されます。
- ・違反をして反則切符が交付されると、反則金を納付することになります。（対象になる自転車の交通違反と反則金は裏面をご確認ください。）

中高生自転車事故発生マップ

～QRコードで学校やお住まいのエリアをチェック！～



自転車交通違反の反則金

以下は、令和8年4月1日から適用される自転車交通違反の反則金です。
対象になる交通違反は、113種類あるため、主要な違反を抜粋しました。

主な自転車の交通違反と反則金（令和8年4月1日～）

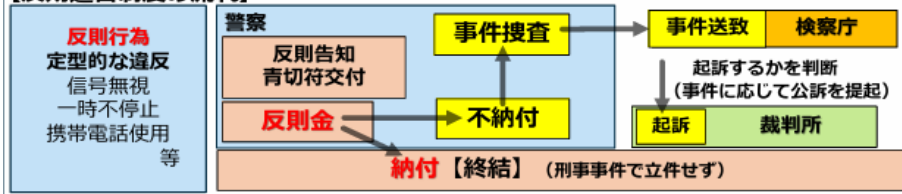
携帯電話を使用しながら自転車を運転する行為 違反名：携帯電話使用等（保持） 反則金：12,000円	自転車で信号無視をする行為 違反名：信号無視 反則金：6,000円
一時停止をしないで交差点に進入 違反名：指定場所一時不停止等 反則金：5,000円	自転車で道路右側を通行したり、歩道を走行する行為 違反名：通行区分違反 反則金：6,000円
傘差し運転やイヤホンで周囲の音が聞こえないような状態で自転車を運転するなど、群馬県の公安委員会が定められた遵守事項に違反した場合 違反名：公安委員会遵守事項違反 反則金：5,000円	
横断歩道を横断中の歩行者を妨害する行為 違反名：横断歩行者等妨害等 反則金：6,000円	夜間、自転車を無灯火で走行する行為 違反名：夜間のライト点灯義務違反 反則金：5,000円
自転車で並進する行為 違反名：並進禁止違反 反則金：3,000円	自転車で2人乗りをする行為 違反名：軽車両乗車積載制限違反 反則金：3,000円

○自転車の交通違反の取締りは悪質・危険な行為が対象です。
○単に歩道を通行しているといった違反だけでは、これまでと同様に「指導警告」が行われるなど、基本的に取締りの対象になることはありません。
※悪質・危険な行為とは、違反をして歩行者を驚かせたり、立ち止まさせた場合や警察官の警告に従わないで違反を継続した場合等です。

交通反則通告制度とは

運転者がした一定の道路交通法違反につき、違反者が警察の通告を受けて反則金を納付した場合は、公訴が提起されない制度

【反則通告制度の流れ】



Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして



「人の命を預かる車を造っている会社だ。
お客さまの安全を守る活動は
一生懸命やるのが当たり前」
本田 宗一郎

安全運転普及本部の歴史

- ・1970年 発足
- ・1972年 レインボーモータースクール設立
- ・1980年代 2輪ライディングスクール開始
- ・1990年代 4輪ドライビングスクール開始
- ・2000年代 生涯教育プログラムの開発
- ・2009年 地区普及BL創設

★埼玉普及BLの活動地域

埼玉県、長野県、山梨県、
新潟県、群馬県、
東京都、神奈川県
千葉県、北海道
の各市区町村



地域に根ざした交通安全へのアプローチ ～生涯教育～

ルール・マナーを守る
交通参加者になるために



幼児・児童教育

将来の良識ある
交通参加者になるために



中・高生教育

安全意識の高い
交通参加者になるために



お取引先様への支援

活き活きとした
交通参加者であるために



高齢者教育

各地域の行政・警察・関係団体・学校・企業・販社などと協働で・・・

- 人と人とのふれあいの中で学ぶ「**手渡しの安全活動**」と
- 危険を安全に体験する「**参加体験型実践教育**」を展開



**誰もが安心・安全な交通社会の実現を目指し交通安全における生涯教育に向けた
地域指導者の活動支援や各プログラムの提供をしています**

交通安全

「中学生を対象とした企業との連携による自転車の安全教室」実施要項

群馬県教育委員会健康体育課

1 目 的 : 中学生が関係する交通事故を防止するため、交通安全意識の向上と良識ある交通社会人の育成を目指して、生徒一人一人が交通ルールやマナーの重要性を理解し、人への思いやりや命の尊さと交通安全の大切さを改めて認識することで、交通事故から身を守る能力を育成することを目的とする。

2 主 催 : 群馬県教育委員会
連携協力 : 本田技研工業株式会社

3 内 容 : 各校の教職員が講師として、以下の内容を生徒に指導する。※別紙参照

(1) 【座学】「人への思いやりや命の大切さ」 45～50 分

①本プログラムのパワーポイントを活用（本田技研工業作成資料）

◇交通ルール、マナーの重要性を学び、事故の影響や自己責任を学ぶ

◇交通弱者への気配りを学ぶ

(2) 【実技】「自ら交通事故から身を守る」 45～50 分

① 8の字走行（混合交通での周囲安全確認の重要性、相手を気遣う思いやり）

② 反応・回避（認知・判断・操作の重要性）

③ 飛び出し・停止（脇見や片手運転の危険）

4 そ の 他 : 事前説明について

○実施希望校につきましては、県教育委員会担当者が、各校へ実施にあたってのプログラム内容、指導マニュアル等の事前説明を行うため訪問いたします。
（※希望校が多い場合は、一括で説明会を開催します。）

＜令和7年度実施校 8校＞

○前橋市立荒砥中学校

○高崎市立長野郷中学校

○桐生市立境野中学校

○桐生市立川内中学校

○館林市立第二中学校

○館林市立第四中学校

○みどり市立笠懸中学校

○邑楽町立邑楽南中学校

＊来年度も実施予定

＊2月中に実施希望調査予定

第58回交通安全こども自転車群馬県大会開催要綱

1 趣 旨

本大会は、小学校児童を対象に、競技を通じて自転車の安全な乗り方の体得と習慣化を図るとともに、これを普及させることによってこどもの交通事故防止に資することを目的とする。

2 主催（共催）

群馬県
安中市
群馬県警察
群馬県教育委員会
群馬県自転車協同組合
(公財)群馬県交通安全協会

3 後 援

㈱上毛新聞社、群馬テレビ㈱、㈱エフエム群馬

4 日 時

令和7年6月28日（土）
午前9時30分～午後4時00分まで（受付 午前9時から）

5 場 所

安中しんくみスポーツセンター
安中市安中1531-1（電話027-392-2500）

6 大会次第

別紙「次第」のとおり

7 選手名簿の提出

- (1) 参加チーム数については、1校1チームとし、1チームの人員は4名とする。
- (2) 出場校の決定については、6月6日（金）までに、「出場校（チーム）申込書」に必要事項を記入し、群馬県交通安全協会あて報告すること。
詳細については、別途指示する。

8 競技の実施

別添「交通安全こども自転車群馬県大会実施要領」により行う。ただし、大会運営上、実施要領を変更する必要がある場合には、変更点を事前に連絡することとする。

令和7年度 大会成績（団体）

- 1 位 嬭恋村立西部小学校
- 2 位 前橋市立筑井小学校
- 3 位 藤岡市立藤岡第一小学校
- 4 位 太田市立藪塚本町南小学校
- 5 位 高崎市立片岡小学校
- 6 位 渋川市立中郷小学校
- 7 位 富岡市立高瀬小学校
安中市立秋間小学校
東吾妻町立東小学校

***来年度も実施予定**

3月中に連絡予定

交通安全

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

令和3年度予算額(案) 338百万円
(前年度予算額 338百万円)



学校、通学路の安全確保に向け、昨今の児童生徒の尊い命を奪う交通事故・事件の発生も踏まえ、スクールガード・リーダー増員による見守りの充実や、スクールガード等のボランティアの養成・資質向上を促進することにより、警察や保護者、PTA等との連携の下で見守り体制の一層の強化を図る。

■実施主体:都道府県及び市町村 ■補助率:国庫補助率1/3、都道府県・市町村各1/3 ※市町村直接実施の場合2/3負担

スクールガード・リーダーの
育成支援

- スクールガード・リーダーの資質を備えた人材（警察官OB・教職員OB・防犯協会役員等）に対する育成講習会の実施

スクールガード・リーダーに 対する活動支援

- スクールガード・リーダーによる指導、見守り活動に対する謝金、各学校を定期的に巡回するための旅費等の補助
- 学校等の巡回活動等を円滑にするためにスクールガード・リーダーの連絡会等の開催を支援、装備品の充実



スクールガード（ボランティア）
の養成・資質向上

- 通学路で子供たちを見守るスクールガードの防犯に対する知識、非常時の対応策等を身に付けさせるための養成講習会を実施
- 活動の参考となる資料を配布することによる見守りの質の向上

スクールガード増員による
見守りの強化及び活動に対する支援

- 「登下校防犯プラン」等に基づく、登下校時のパトロールや地域の連携の場構築など防犯活動への支援
- 子供の見守り活動に係る帽子や腕章などの消耗品費、ボランティア保険料の補助

スクールガード・リーダー育成
講習会、スクールガード養成講習会
の開催に係る経費を補助し、
見守りの人材確保と質の向上

**スクールガード・リーダーが
スクールガードに対して、
見守り活動・警備上のポイントや
不審者対応等について指導・助言**

地域ぐるみで子供の安全を守る体制構築

令和7年補助金活用自治体

・太田市 ・渋川市
・富岡市 ・安中市

群馬県の実施

群馬県とトヨタ・モビリティ基金との連携協定の概要について

2. 協定締結の趣旨



協定名称

群馬県と一般財団法人トヨタ・モビリティ基金との自転車交通事故削減に向けた啓発活動に関する連携協定

目指す姿

- 群馬県や県警、民間企業双方のデータや啓発活動に関するノウハウを掛け合わせた効果的な事故対策の仕組みの構築
- 啓発の“受け手”と“教え手”が共に必要性を共有し、自分事として主体的に取り組むことが出来る啓発施策モデルの確立

群馬県とトヨタ・モビリティ基金の連携イメージ

それぞれの 施策と連携 イメージ

群馬県の施策展開

ドライバー向け動画制作
広報・プロモーション
県警・県教委との連携
交通事故分析・対策



トヨタ・モビリティ基金の施策

交通安全啓発ツール制作
高校生向け啓発活動
販売店等ネットワークの活用
交通事故分析・対策

群馬県の実践

群馬県とトヨタ・モビリティ基金との連携協定の概要について

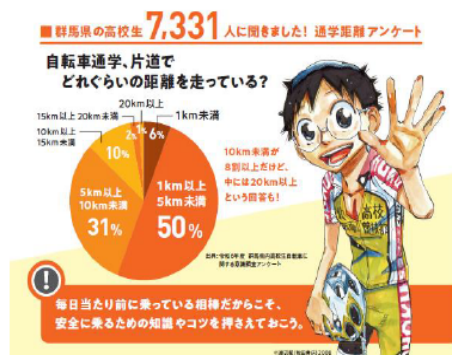
5. 具体的な連携内容

群馬県
GUNMA PREFECTURE

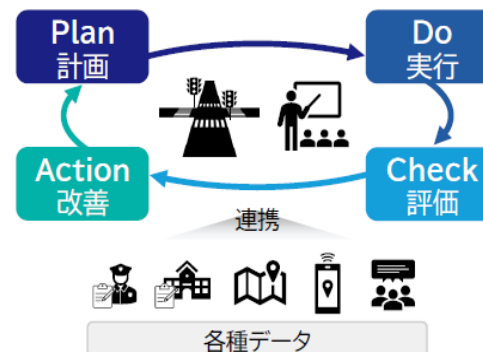
×

TOYOTA
mobility
FOUNDATION

1 自転車交通事故削減に向けた啓発施策に関すること



2 データを活用した対策検討・効果検証に関すること



- 人気漫画『弱虫ペダル』とのコラボで制作した自転車利用ルールの啓発冊子を配布
 - 「なぜ」と「どのように」を盛り込んだ群馬ならではの内容で、ルール順守を促す
- tsukurunとの連携によるデジタルクリエイティブ×交通安全の動画制作講座の実施
- 多忙な教育現場の実情に即した「身近な危険箇所を知ることから安全行動へと導く」交通安全啓発教材の制作・配布
- 警察や行政と民間企業(自動車会社、通信会社等)のデータ連携によるデータドリブンの事故対策・効果検証モデルの構築
 - 警察・学校が管理する交通事故情報
 - クルマの車両データを活用した高リスク地点(急減速・一時不停止多発等)
 - スマホ利用者の位置情報データ
 - 意識・理解度を測るためのアンケート情報 等

生活安全（熊出没対応）

（公印省略）
健体第30010—22号
令和7年10月31日

各市町村教育委員会
学校安全主管課長 様

群馬県教育委員会事務局
健康体育課長 山田 知利

クマの出没に対する学校及び登下校の安全確保について（通知）

このことについて、別添のとおり、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課及び環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室から事務連絡がありました。

近時、全国各地において、市街地や集落など人の生活圏でのクマによる被害が発生しており、これまであまりクマの出没が見られなかった地域も含め、学校生活や登下校の安全確保、不安の解消に向けた対応が求められています。

つきましては、別添の環境省作成の「クマ類の出没対応マニュアル（改定版）」や地方公共団体における取組事例及び下記に記載した群馬県のクマの出没に関するHP等を参考に、日頃からクマの出没情報に留意し、通学路の点検や変更、クマの出没時の安全対策や連絡体制など、各地域の実情に応じた対策の検討をお願いいたします。あわせて、危機管理マニュアルへの記載や、学校及び登下校時、日常生活における児童生徒への注意喚起についても御配慮いただき、児童生徒の安全確保に向けた指導をお願いいたします。

なお、対策の検討に当たっては、市町村の鳥獣被害対策関係部局や管轄する警察署と連携協力を図るなど、地域の関係機関との連携も含めた対応をお願いいたします。

また、参考として「クマの出没に係る対応（例）」を添付しましたので、各市町村や学校の実情に合わせ、必要に応じて御活用くださいますようお願いいたします。

記

【参考】

< 県公式ホームページ 環境森林部自然環境課 ツキノワグマ情報について >

<https://www.pref.gunma.jp/page/7141.html>

< 外部リンク 群馬県クマ出没マップ >

<https://pref-gunma.maps.arcgis.com/apps/dashboards/5276d2ebf02a42da8595ed2a51a334c8>

参 考

クマの出没に係る対応（例）

〇〇学校

1 発生時の対応のポイント

状況の把握

- ・管理職は、クマの出没事案を認知後、直ちに市町村及び管轄する警察署に状況や被害防止対策を問い合わせ、正確な情報を把握する。
- ・クマの出没状況や被害防止策などの情報収集については、クマ発見の初期段階から出没終息まで、途中経過も含めてきめ細かく行う。
- ・事実とかけ離れた噂が流布することから、管理職が情報を一元化して管理し、設置者の教育委員会と連携し、正確な情報を児童生徒、保護者、教職員等に提供する。

登下校時

（児童生徒の登校前にクマ出没事案を認知した場合）

- ・管理職は、把握した情報をもとに、登下校時における児童生徒の安全確保に向けた対応を検討し、設置者の教育委員会の指導・助言のもと、その結果について、直ちに保護者に対し、電話やメールなど確実に伝達される方法により連絡を行う。

なお、通学路にクマが出没する危険性がある場合は、保護者の自家用車による送迎、臨時休業又は自宅でのオンライン授業等を検討し、保護者の理解を得るように努める。

（児童生徒の登校時間帯にクマ出没事案を認知し、通学路に出没する可能性がある場合）

- ・市町村、警察署、PTA等と連携し、教職員についても、自動車に乗車するなど自らの安全を確保できる方法で通学路の見回り等を行うことを検討し、登下校中の児童生徒を発見した場合は、緊急的な避難の措置を講じる。

（児童生徒の在校中にクマ出没事案を認知し、通学路に出没する可能性がある場合）

- ・各校で定めた引き渡しのルールに基づき、児童生徒のみでは下校させず、保護者に児童生徒を直接引き渡して下校させる。
- ・判断に迷う場合には、速やかに設置者の教育委員会の指導・助言を得る

屋外での活動の実施についての検討

- ・屋外での活動の実施については、クマの出没状況を踏まえ、設置者の教育委員会の指導・助言のもと判断する。なお、児童生徒の安全確保が保障できない場合は、変更もしくは中止する。また、状況により出入り口や窓の施錠などを行う。
- ・クマが学校周辺に出没する可能性が低く、屋外での活動を実施する場合であっても、近隣地域にクマの出没事案があれば、教職員による見守りを強化するとともに、市町村や警察署から常に最新の情報を入手し、万が一の場合に備えて児童生徒の避難経路と避難場所を確認する。

生活安全（熊出没対応）

クマ被害対策パッケージ（概要）

別添1

令和7年11月14日 クマ被害対策等に関する関係閣僚会議決定

- クマによる死者数が過去最多を大幅に更新し、国民の安全・安心を脅かす深刻な事態となっていることを踏まえ、関係省庁連携による緊急的な対策を含めた総合的な施策パッケージの実施により、国民の命と暮らしを守る。
- 人の生活圏からクマを排除するとともに、周辺地域等において捕獲等を強化することで、増えすぎたクマの個体数の削減・管理の徹底を図り、人とクマのすみ分けを実現する。

※いずれの取組も新規又は対策の強化を行うもの

緊急的に対応すること（★は着手済）

- ★緊急銃猟に係るノウハウや事例の整理・周知及び専門家派遣（環境省）
- ★緊急銃猟に係る責任範囲の周知等による捕獲従事者の不安払しょく（環境省）
- ★効果的な事例の共有などクマ対策の必要性に関する理解醸成（環境省）
- ★自治体職員による捕獲従事等に関する通知発出（環境省、総務省）
- ★インバウンドを含めた登山者等への多言語による情報発信等（環境省、観光庁）
- ★警察によるライフル銃を使用したクマの駆除（警察庁）
- ★都道府県・市町村等と連携した出没時の安全確保（警察庁、文部科学省）
- 自衛隊OB、警察OB等への協力要請（環境省、防衛省、警察庁）
- ★学校及び登下校時の安全確保に関する取組の周知等（文部科学省、環境省）
- ★農林業従事者の安全確保の徹底（農林水産省、林野庁）

短期的に取り組むこと

- 春期のクマ捕獲及び捕獲単価の増額を含む集落周辺個体の捕獲強化等による個体数の削減・管理の徹底（環境省、農林水産省、総務省）
- ガバメントハンターの人件費や資機材等の支援（環境省）
- クマ駆除技能を有する警察官の確保・資機材整備（警察庁）
- 市街地等での適切な麻醉銃の使用方法、効果的な捕獲方法・出没防止対策に関する情報提供（環境省、農林水産省）
- 緩衝帯・強固な柵の整備、誘引物の撤去、電気柵による防護強化、ICT等による出没情報の提供等（環境省、農林水産省、林野庁）
- 河川における出没対策のための樹木伐採や占用許可円滑化等（国土交通省）

中期的に取り組むこと

- 自治体における専門人材、高度な捕獲技術を持つ事業者・捕獲技術者（ガバメントハンター等）の育成（環境省、農林水産省）
- クマの個体数の削減、人の生活圏からの排除に向けたガイドライン改定等（環境省）
- 適切な個体数管理のための統一的な手法による個体数推定（環境省）
- 堅果類の豊凶調査に基づくクマ出没傾向に関する情報発信（環境省、林野庁）
- 保護区の設置・管理、広葉樹林化等による人の生活圏とのすみ分け（環境省、林野庁）

○ 各種対策について、交付金等による速やかな支援を実施

（主な対象経費）・ハンターへの手当等の捕獲推進にかかる費用 ・ガバメントハンター人件費 ・クマ対策関連資機材（はこわな、電気柵、クマスプレー、安全装備等）購入費 ・緩衝帯整備費 ・誘引物の撤去費 ・ICTを活用した出没対策費 ・人材育成のための研修費 等 ※その他 警察官の資機材整備、河川の樹木伐採、旅行者への多言語発信などを実施

○ 交付金を受けて実施する事業や地方単独事業として実施するクマの駆除等に要する経費について、特別交付税措置を講じる

生活安全（熊出没対応）

高崎市教育局等クマ出没対応マニュアル

クマ出没時の対応チェック表

クマの出没情報

緊急対応が必要か

必要なし

- 最新情報の収集
- 必要に応じて、教育委員会・警察支所等関係機関との情報共有

必要

- 学校の近く（学区内）に出没した
- 通学路に出没した
- 人に危害が加えられた 等

登校前

- ☐ 職員間の情報共有と対応の協議
- ☐ 関係機関への連絡（警察・市教委・支所）
- ☐ 通学路の安全確認
 - ・関係機関によるパトロール
 - ・職員による車での巡回
- ☐ 保護者への連絡（テトルで連絡）
 - ・目撃情報があつた場所等
 - ・保護者送迎、自宅待機等対応を指示
 - ・登校時の注意事項

在校時

- ☐ 児童生徒の安全確保と安全指導
 - ・児童生徒の所在確認
 - ・校舎一階の施錠（状況に応じて窓の施錠も）
 - ・屋外での活動を制限（体育、休み時間、部活動など）
 - ・在校時及び下校時の注意事項を指導
- ☐ 職員間の情報共有と対応の協議
- ☐ 関係機関への連絡（警察・市教委・支所・近隣の学校園・学童等）
- ☐ 保護者への連絡（テトルで連絡）
 - ・集団下校、引き渡し、部活動休止などの連絡
 - ・下校時の注意事項
- ☐ 通学路の安全確認
 - ・関係機関によるパトロール
 - ・職員による車での巡回、下校時の付き添い等

※安全が確保されるまで上記の対応を継続する。

R7. 12. 3

学校付近でのクマ出没時の連絡体制について

教育委員会

※学校は関係担当課へ報告をお願いします。
その後、必要に応じて市教委内で共有します。

【学校（園）の対応について協議】

- 学校教育課（教育課程関係） 321-1293
- 健康教育課（通学路関係） 321-1294
- 教職員課（教職員関係） 321-1298
- 教育総務課（施設関係） 321-1291

幼稚園・小中高等学校

保護者

※事件性がある場合 警察署（生活安全課）

- 高崎署 328-0110
- 北署 371-0110

高崎市関係課

- 高崎市農政部 農林課 321-1261
- 倉渕支所 農林建設課 378-4527
- 箕郷支所 産業課 371-9057
- 群馬支所 産業課 373-2447
- 新町支所 地域振興課 0274-42-1235
- 榛名支所 産業観光課 374-6712
- 吉井支所 産業課 387-3134

幼稚園・学校で対応すべきこと

- ・上記関係機関への連絡
- ・テトル等、学校連絡網を用いた保護者への連絡
- ・登下校時刻、登下校体制等の調整・変更
- ・関係機関との連携による学校周辺の見回り
- ・地域への関係団体への連絡、協力要請

高崎市クマ出没SOS
緊急ダイヤル 395-9090
（土曜・日曜・祝日含む24時間）

※高崎市クマ出没緊急ダイヤルについて



<熊出没対応>

- ・ 出没に関する情報収集、情報共有
→ 教職員・生徒・保護者に対しての情報提供
- ・ 学校施設及び通学路の点検
→ 校門・扉の施錠、通学路の変更 など
- ・ 危機管理マニュアルの追記
→ 熊出没に関する注意事項
- ・ 関係機関との連携
→ 警察、消防署、各自治体（自然保護課・鳥獣対策課・農政課 など）との連携

＜熊出没対応＞

- ・ クマ出没の影響による臨時休校の対応措置

- 各市町村教育委員会から教育事務所へ連絡

- 健康体育課にも情報提供

⇒ 児童生徒及び職員の安全を最優先した対応

生活安全（熱中症予防）

※「医療機関での処置」については重複有り

	内訳						計	発生場所		救急車要請		医療機関での処置			発生状況				
	幼	小	中	高	中等	特支		屋内	屋外	有	無	入院	点滴	その他	授業中	休み時間	部活中	登下校中	その他
R1	1	106	122	67	0	1	297	84	213	116	179	10	156	66	124	5	128	7	33
R2	1	25	87	63	0	0	176	62	114	96	80	7	121	50	58	2	93	8	15
R3	0	19	65	40	0	0	124	45	79	72	52	4	86	32	37	3	65	4	15
R4	0	36	73	57	1	0	167	71	96	90	77	5	104	56	55	1	81	9	21
R5	0	41	62	61	0	0	159	84	75	89	70	12	116	41	53	3	80	6	16
R6	2	18	49	41	1	2	113	32	80	68	44	4	84	30	47	1	57	6	2
R7	0	38	72	39	2	2	153	56	97	74	79	14	93	46	41	1	70	14	27

生活安全（熱中症予防）

学校管理下における熱中症発生状況について(医療機関受診)

	発生月							発生場所		救急車要請		医療機関での処置			発生状況				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	屋内	屋外	有	無	入院	点滴	その他	授業中	休み時間	部活中	登下校中	その他
小学校	0	4	17	8	1	7	1	17	21	10	28	4	16	18	18	1	0	7	12
中学校	2	10	16	29	9	6	0	22	50	33	39	4	47	21	16	0	44	1	11
高校	0	3	5	15	12	4	0	14	25	29	10	5	29	5	7	0	24	5	3
中等	0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	1	1	1	0	0	0	2	0	0
特支	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	2	0	0	0	1	1

第3章

暑さ指数（WBGT）について

暑さ指数（WBGT）とは

- 熱中症の危険度を判断する環境条件の指標に暑さ指数（WBGT：Wet Bulb Globe Temperature：湿球黒球温度）があります。
- 暑さ指数（WBGT）は、人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目し、熱収支に与える影響の大きい ①湿度、②日射・輻射など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標で、単位は、気温と同じ℃を用います。
- 暑さ指数（WBGT）は、運動環境や労働環境の指針として有効であると認められ、多くの学校において屋外での体育の授業の実施や休み時間の外遊び、部活動の実施の目安として用いられています。
- 暑さ指数（WBGT）は、右に示すような暑さ指数（WBGT）計で測定します。暑さ指数（WBGT）は、温度や湿度などの複数の環境要素を合わせて測定しているため、場所や時間により、値が変動します。**活動場所ごと、活動時間ごとに測定することが大切**です。



暑さ指数に応じた注意事項等※1

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安※1)	日常生活における注意事項※1)	熱中症予防運動指針※2)
31℃以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
28～31℃		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	軽重警戒（激しい運動は中止） 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人※3は運動を軽減または中止。
25～28℃	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。	警戒（積極的に休憩） 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
21～25℃	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意（積極的に水分補給） 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。

※1) 日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」(2019)より、気温計・湿度計・日射計を併用して測定する。

※2) 日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」(2019)より、運動指針は個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。

※3) 暑さに弱い人、体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など。

※1 環境省『夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン 2020』
 ※2 環境省 熱中症予防情報サイト (<https://www.wbgt.env.go.jp/>)

- 暑さ指数（WBGT）計がない場合には、環境省が熱中症予防情報サイト※2で公開している、日本各地の暑さ指数の実測値や推定値を目安の参考値として、活用することができます。

<熱中症対応>

- WBGIT計の活用

- 活動場所の暑さ指数の確認
- ⇒ 暑さ指数に応じた対応

- 救急搬送要請

- 躊躇することなく、救急車を要請

- 年間計画（学校行事、保健体育授業など）

- 今年度の様子参考に、
来年度の計画見直し など

生活安全（熱中症予防）

熱中症送信票
(市町村立学校用)

《別紙様式》

市町村教育委員会



教育事務所



県教育委員会健康体育課

E-mail
Fax

E-mail
Fax

E-mail kitaiikuka@pref.gunma.lg.jp
Fax 027-243-3211

令和7年度学校における熱中症（疑いを含む）発生について

学 校 名			
発 生 日 時	令和 年 月 日 () :		
場 所			
学年・性別	学年 組	男 ・ 女	
救急車要請	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
医療機関名			
処 置	<input type="checkbox"/> 点滴 <input type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> その他		
状況の概要（箇条書き） (氏名の記入は不要とします)		発生時の暑さ指数 (W B G T) (可能な限り記載)	
		31℃以上 <input type="checkbox"/> 28～31℃ <input type="checkbox"/> 25～28℃ <input type="checkbox"/> 21～25℃ <input type="checkbox"/> 21℃未満 <input type="checkbox"/>	

※原則として、医療機関を受診した事案について報告してください。

(氏名の記入は不要とします)

※集団での発生や重篤な場合等、緊急を要する場合は、電話で一報を入れてください。

・ 熱中症（疑い含む）発生

⇒ 報告書を提出

*状況の概要

→ 活動内容、部活動名の記載

⇒ 学校体育係と連携

生活安全（安全点検）



生活安全（安全点検）



生活安全（安全点検）

学校保健安全法施行規則（抜粋）

第二十八条 法第二十七条の安全点検は、他の法令に基づくもののほか、**毎学期1回以上**、児童生徒等が通常使用する施設及び設備の異常の有無について系統的に行わなければならない。

2 学校においては、必要があるときは、**臨時に、安全点検**を行うものとする。

第二十九条 学校においては、前条の安全点検のほか、設備等について**日常的な安全点検**を行い、環境の安全確保に努めなければならない。



安全点検の種類	時期・方法等	対 象	法的根拠等
定期の安全点検	毎学期1回以上 計画的に、また教職員全員が組織的に実施	児童生徒等が使用する施設・設備 及び防火・防災、防犯に関する設備 などについて	学校安全法施行規則第28条第1項
	毎月1回 計画的に、また教職員全員が組織的に実施	児童生徒等が多く使用すると思われる校地、運動場、教室、特別教室、廊下、昇降口、ベランダ、階段、便所、手洗い場、給食室、屋上など	明確な規定はないが、各学校の実情に応じて、施行規則第28条第1項に準じて実施
臨時の安全点検	必要があるとき ・運動会等の学校行事の前後 ・暴風雨、地震等の災害時 ・近隣で危害の恐れのある犯罪の発生時	必要に応じて点検項目を設定	施行規則第28条第2項
日常の安全点検	毎授業日ごと	児童生徒等が最も多く活動を行うと思われる箇所について	施行規則第29条

学校保健安全法

第28条 校長は、当該学校の施設又は設備について、児童生徒等の安全の確保を図る上で支障となる事項があると認めた場合には、遅延なく、その改善を図るために必要な措置を講じ、又は、当該措置を講ずることができないときは、当該学校の設置者に対し、その旨を申し出るものとする。

- ① 児童生徒等の行動の様子
- ② 物の移動などを含む状況の変化
- ③ 機器・設備等の劣化や損傷（主に授業等で頻繁に使用するもの）

事故とは、①行動、②その時々状況、③環境の状態との組み合わせによって起きるものです。児童生徒等の目線に立って、確認していくことが重要です。

ポイント	①児童生徒等の行動の様子	②物の移動などを含む状況の変化	③機器・設備等の劣化や損傷（主に授業等で頻繁に使用するもの）
視点	・ 児童生徒等の行動が事故につながるか。	・ 活動場所等において危険に繋がる変化がないか。	・ 使用する機器・設備、用具等が安全な状態にあるか。
重大事故（例）	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 窓際にある足掛かりとなる設置物に上り、窓枠に腰かけた際に窓が開いているのに気付かずに転落。 ・ 渡り廊下での走り込みの際、止まらずにドアの強化ガラスに突っ込む。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育祭の準備で、立てかけてあった長机3卓が倒れ、頭部に落下。 ・ 校庭に長年の放置されていたくぎにより、転倒した際に負傷。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動でバッティングマシンの球のコース調整時、ねじ式の棒がはずれ、機械上部が落下し、指を切断。 ・ 農業の授業時、わら切り機で作業中、機械奥に詰まった草を取る際、手を機械の中に入れてしまい指の一部を切断。

重大事故の事例や校内等でのヒヤリハット事例を教職員間で共有し、「日常の安全点検」の項目として設定し、事故防止に生かす。また、生徒等の危険な行動や、事故発生につながる危険な状況の変化等を見つけた際には、その危険物の除去のほか、児童生徒等への指導や注意喚起とともに、教職員間でも共有し事故の防止に努める。

校庭・グラウンド〈くぎの飛び出し等〉

【点検時期】
日常・行事後

石、ガラス片、くぎ、凹凸などによる危険はないか。

【事故の発生リスク】

- ・大きな石や、凹凸により躓いて転倒する。
- ・校庭でのくぎの抜き忘れ等により、体育の授業や休み時間等で児童生徒等が躓いて転倒したときに、飛び出したくぎ等で負傷する。 など

■点検の視点

- 校庭・グラウンドのほか、砂場にもガラス片などの危険物がないか、凹凸により躓く危険性がないかを確認します。
- 校庭に行事等で使用したくぎがそのまま放置されている場合があるので、抜き忘れたくぎがないか点検します。



■主な点検の方法

【日常の安全点検】

- ・授業や活動の前には、ガラス片やくぎなどの危険物はないか、凹凸による危険な状態になっていないかを目視により確認する。
※砂場で活動させる場合にも、事前に確認する。
- ※行事等で校庭にくぎを使用した際は、使用後に、使用したくぎの本数と回収したくぎの本数を確認するなど、複数の担当者の目で全てのくぎが抜けているかと確認することが重要です。

■対応

- ・抜き忘れたくぎや、ガラス片などの危険物を全て除去します。すぐに除去できない場合は、可能性のある範囲を立入禁止にするなどの応急措置をしましょう。また、凹凸により躓く危険性がある場所は平らにしましょう。

生活安全（安全点検）

2. 近年の体育館の床板の剥離等による負傷事故について

Q 近年の体育館での負傷事故にはどのようなものがあるか？

沖縄県内の公立小学校 (令和7年2月発生)

バレーボールで飛び込んだ際に、
剥離した床板が左腰部に刺さり
負傷する事故が発生。
(木片寸法：0.5cm×5cm)



群馬県内の公立中学校 (令和7年2月発生)

バレーボール部の練習試合中、
飛び込んだ際、床板の継ぎ目
がシャツにかかって剥離した
床板が、鋭角の形状で右腹部
に刺さり負傷する事故が発生。
(木片寸法：12mm×30cm)



東京都内の公立中学校 (令和7年1月発生)

体育の授業中、滑りながら床
に座った生徒の臀部に剥離し
た床板が刺さり負傷する事故
が発生。(支柱の仮置きで床
板が傷ついていた)



宮城県内の公立小学校 (令和7年1月発生)

バレーボールの部活動中、生徒
が滑り込みをした際、床板から
露出していたねじ頭により膝に
裂傷を負う事故が発生。(老朽
化により、木栓が外れ、ねじ頭
が露出していた)



東京都内の公立小学校 (令和6年12月発生)

学校開放利用団体の活動中、
団体に所属する児童の臀部に
剥離した床板が刺さり負傷す
る事故が発生。
(木片寸法：7cmx0.6cm)



- ① 水拭き及びワックス掛けを実施していない学校でも、事故が発生している。
- ② 築10年と比較的に新しい学校においても、事故が発生している。
- ③ 目視による日常点検を実施している学校においても、事故が発生している。



特徴

4. 体育館の床板の応急処置・簡易補修について

Q ササクレが見つかった際の応急処置・簡易補修にはどのような手法があるか？

● 床板の簡易補修（パテ埋め補修）を行う場合の手順例

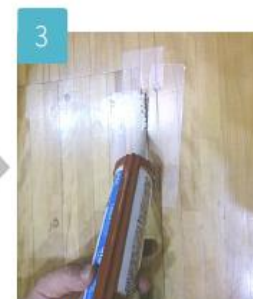
軽微で部分的な不具合であれば部分補修で対応可能であり、パテによる隙間埋め補修（下図）、接着剤による割れ・ササクレ補修がある。



1
剥離部分のササクレを
カッター等で除去した後、
サンドペーパーで平にする



2
剥離部分以外にパテが
つかないようにテープで養生



3
床板用パテを充填する



4
ヘラで表面を整える



5
パテ硬化後、
サンドペーパーで平にする



6
補修テープを貼って
修繕完了

※参考：パテ埋めによる簡易補修の手順は、動画でも解説されている

<https://www.youtube.com/watch?v=Afip911jG-s>

(監修) 公益財団法人 日本スポーツ施設協会 屋内施設フロアー部会

※写真は、公益財団法人日本スポーツ施設協会の作成資料より抜粋



2-2-4-1 不審者侵入の防止

学校への不審者侵入を防止する上では、①校門、②校門から校舎入口まで、③校舎への入口、という3段階の観点を持つことが重要です。このうち、特に「②校門から校舎入口まで」は盲点となりがちですので、注意しましょう。

不審者侵入防止のための3段階の観点

段 階	具体的な方策(例)
①校門	校門の施錠、利用箇所・利用時間指定 フェンス等の設置 等
②校門から校舎入口	通行場所の指定、死角の排除 等
③校舎への入口	入口の指定・施錠、受付管理 等

この3段階のチェック体制を具体化する対策としては、学校内外の施設設備・器具の安全点検と、校門・校舎入口の施錠管理、来訪者等の管理、校内巡回などがあります。これらのうち安全点検については、他の危機事態に関する点検と併せて「2-2-2 点検」にまとめて記載するとわかりやすいでしょう。

校門等の施錠管理については、時間帯別・利用者別に利用箇所を限定するとともに、校門等の解錠・施錠時刻やその担当者などを定めておき、児童生徒等や保護者に対し、これをしっかりと周知して遵守を呼び掛けることが大切です。

記載の視点

- 校門・校舎入口の管理・施錠手順
 - ・ 時間帯別・利用者別の利用箇所
 - ・ 解錠・施錠時間、施錠担当者
 - ・ 児童生徒等、保護者への周知と遵守徹底
- 来訪者・保護者の管理方法
 - ・ 来訪者向け案内・誘導
 - ・ 来訪者受付の手順(名簿作成等)
 - ・ 来訪者の識別方法(名札等)
 - ・ 来訪者の確認、声掛け
- 学校内外の巡視・巡回活動

災害安全（防災教育）

県土整備部 砂防課・河川課

こどもたちが
土砂災害・水害から
主体的に避難する力を
一緒に育みませんか？



こどもたちが主体的に避難する力を育むことを目的に

作成した小学校高学年向けの **防災教育教材** を紹介します！

避難指示が出されるのを
待つのではなく

自分たちで判断して
身を守ることが大切



※モデル授業でのこどもたちからの発言

自らの命は自ら守る
助けられる側から助ける側へ



※津波襲来直前に自ら避難することも大切

東日本大震災（平成23年）の大津波から命を守り抜いた岩手県釜石市のこどもたちが受けていた防災教育の理念に基づき作成しました。

詳細は裏面をご覧ください

【制作】群馬県県土整備部砂防課、河川課 / 【協力】危機管理課、教育委員会（健康体育課）
【監修】片田敏孝氏（東京大学大学院情報学環特任教授／群馬大学大学院名誉教授）





【お問合せ先】群馬県県土整備部砂防課 砂防情報係
（電話番号）027-226-3633 （メール）sabouka@pref.gunma.lg.jp

2025年
7月作成

～ 主体的に避難する力を育むために児童の理解が深まる4テーマを段階的に設定 ～

テーマ	ねらい
①自然がもたらす恵みと災いを知る	地域にある自然の良いところと、大雨が降ったときの危険を知る
②災害発生の仕組みと対策を知る （土砂災害編・洪水災害編）	土砂災害・洪水災害の起こり方（種類）と対策について知る
③災害から身を守る行動を知る	大雨が降ったときの身を守る行動（避難）を知る
④自助と共助の大切さを知る	わたしたちができることを考える ～助けられる側から助ける側へ～

～ 初めて防災教育に取り組む教員が、多忙な中でも少ない負担で取り組める教材構成 ～

教材構成	資料の特徴
 学習 指導案	・授業は「導入→展開→まとめ」の流れで組立 ・「育成すべき資質・能力」の「三つの柱」、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の該当箇所がわかるよう表記 ※資料編「防災教育必携」で、防災教育に係る指導の心得も整理
 授業用 スライド	・テーマごとに学習指導案に沿って作成 ・地域に合わせた写真を自由に入替可能 ※写真は資料編「群馬の災害」から選択可 ・児童の興味・関心を高める映像やアニメーションを使用
 ワーク シート	・授業用スライドの進行に合わせて作成（ワークシートへの書き込みを誘導するようなスライドを準備） ・教員用の回答例も整理（テーマ①と③） ・地域に合わせた入替可能な設問パターンも用意（テーマ③）
 副読本	・予習用・復習用など教員の取り組み方に応じて活用が可能 ・イラストや写真を多く用いて作成 ・授業では扱わない内容についても個人で学習できるように設計

※本教材は、「総合的な学習の時間」での活用を想定しています。

～ モデル授業を実施した
教員・児童の声 ～

「子供が意欲的に取り組み、
様々な意見が出され良い授業ができた。」
（千代田町立西小学校中村先生）

「はじめての防災教育の授業だったが、
安心して実施できた。」
（高崎市立車郷小学校廣木先生）

「避難を自分で判断し、
行動することが大切だと知った。」
（児童）

教材紹介動画等はコチラ



教材紹介 モデル授業の様子① モデル授業の様子②

※動画は限定公開としているため、このチラシは教員等関係者限りの周知としてください。

教材のダウンロード先はコチラ

砂防課HPにアクセス
<https://www.pref.gunma.jp/page/699959.html>

災害安全（防災教育）

学校安全総合支援事業

令和7年度予算額
(前年度予算額)

238百万円
211百万円)



学校安全の推進に向けた課題

- ・学校において様々な計画やマニュアルが作成されているが**実効的な取組に結び付いていない**。
- ・地域、学校設置者、学校教職員の学校安全の**取組内容や意識に差がある**。
- ・東日本大震災の記憶を風化させることなく、今後発生が懸念される大規模災害に備えた**実践的な防災教育を全国的に進めていくことが必要である**。
- ・地域の多様な主体と連携・協働し、**子供の視点を加えた安全対策**を推進する必要がある。

「第3次学校安全の推進に関する計画」（令和4年3月閣議決定）に基づく取組を推進

1. 組織的取組	2. 関係機関との連携	3. 安全教育	4. 安全管理	5. 横断的事項
・学校安全計画のPDCAサイクルの確立 ・学校安全に係る中核的職員の育成配置	・コミュニティスクール等の仕組みの活用 ・関係機関と連携した通学時の安全確保や防犯対策	・地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育 ・体験活動やデジタル技術を活用した安全教育 ・幼児期、特別支援学校の取組の推進	・子供の視点を加えた安全点検 ・重大事故の予防のためのヒヤリハット事例の活用	・学校安全情報の見える化 ・通学路の安全対策等の好事例の実情把握 ・設置主体（国公立）に関わらない取組の推進 ・学校安全を意識する機会の設定（学校安全の日等）

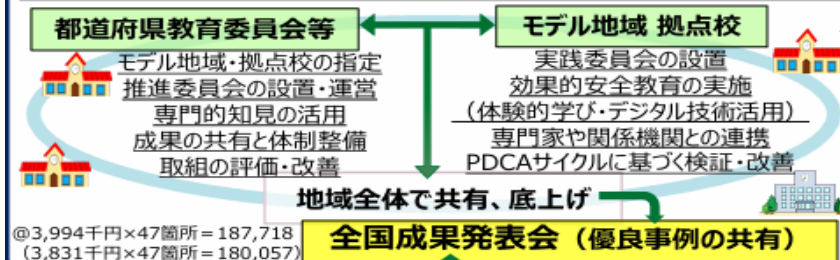
セーフティプロモーションスクール（SPS）の考え方※を取り込み、全国的に学校安全を推進していく。

※安全教育・安全管理・組織活動に係る計画の策定、安全担当中核教員の設置、関係機関との連携、評価改善の実施など、継続的に学校安全に取り組む。

実践

- **学校安全推進体制の構築** R7予算額(案) 188百万円(180百万円)
【都道府県・指定都市教育委員会への委託事業、平成24年度事業開始】

計画に基づくモデル的取組を各地域で実施し、その事例、成果等を地域全体で共有。地域全体の学校安全の底上げと裾野の拡大を図る。



研修・共有・展開

- **学校安全に係る専門性向上支援** R7予算額(案) 27百万円(26百万円)
【民間企業等への委託事業、令和4年度事業開始】

各学校（国公立・私立含む）に対し、学校安全に係る研修の実施、専門家の派遣等様々な支援を行い、全国の学校の安全の推進を図る。

- SPSの考え方を取り入れた学校安全実践力向上セミナー等の開催
・学校設置主体の別を問わず学校安全推進のためのセミナーを開催
例）防犯・事故対応等テーマ別オンラインセミナー 危機管理マニュアル見直しセミナー
スクールバスの活用など通学時の安全対策に関するセミナー
- 専門家等の派遣
・学校安全計画や危機管理マニュアルを見直すための専門家からの助言等
・各学校の安全点検・事故対応の高度化に資するよう、各地域への専門家派遣等を実施
- 学校安全指導者研修会の開催
・各地域における学校安全に関する研修講師等となる者に、効果的な研修会実施に必要な知識などを習得させることで、各地域における研修会の質を向上 @26,915千円×1団体＝26,915
(26,395千円×1団体＝26,395)

評価・改善

学校安全のモデル的取組に関する実態調査 R7予算額(案) 19百万円(新規)

- ・SPS認証校及び自治体モデル地域拠点校を対象に学校安全に関するモデル取組の実態を調査
- ・優良事例や共通する取組・成果・課題を整理・分析→研修会等に活用
- ★SPSの考え方を取り入れた学校安全の取組の現状（優良事例・成果・課題等）を整理し全国的に共有することで、各地域での取組の質の更なる向上を図る。

@19,032千円×1団体＝19,032

令和5年・6年 伊勢崎市

令和7年・8年（予定） 藤岡市

重ねるハザードマップ
～防災に役立つ情報を地図を重ねて表示～

洪水想定区域や道路情報、危険箇所などを地図や写真に重ねてシームレスに閲覧できます。

すぐに見る

場所を入力

例：国土地理院/36.1 140 3/36度6分36秒 140度5分3秒/545501

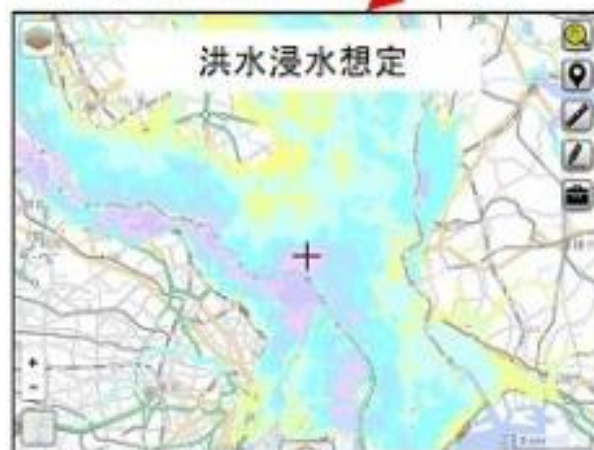
表示する情報を選択



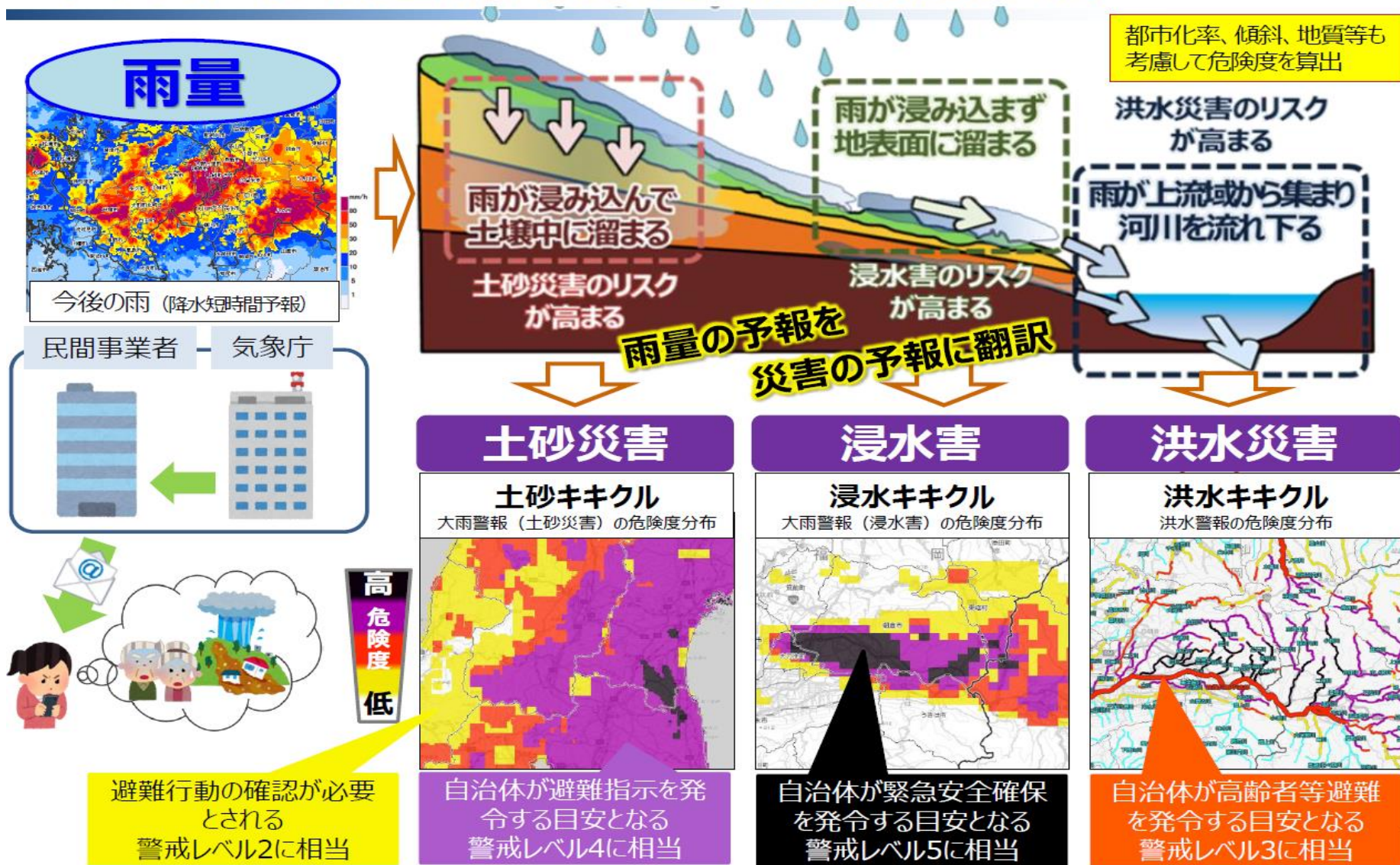
洪水 土砂災害 津波



地図上に災害リスク情報が表示されます。



キキクル（大雨警報、洪水警報の危険度分布）

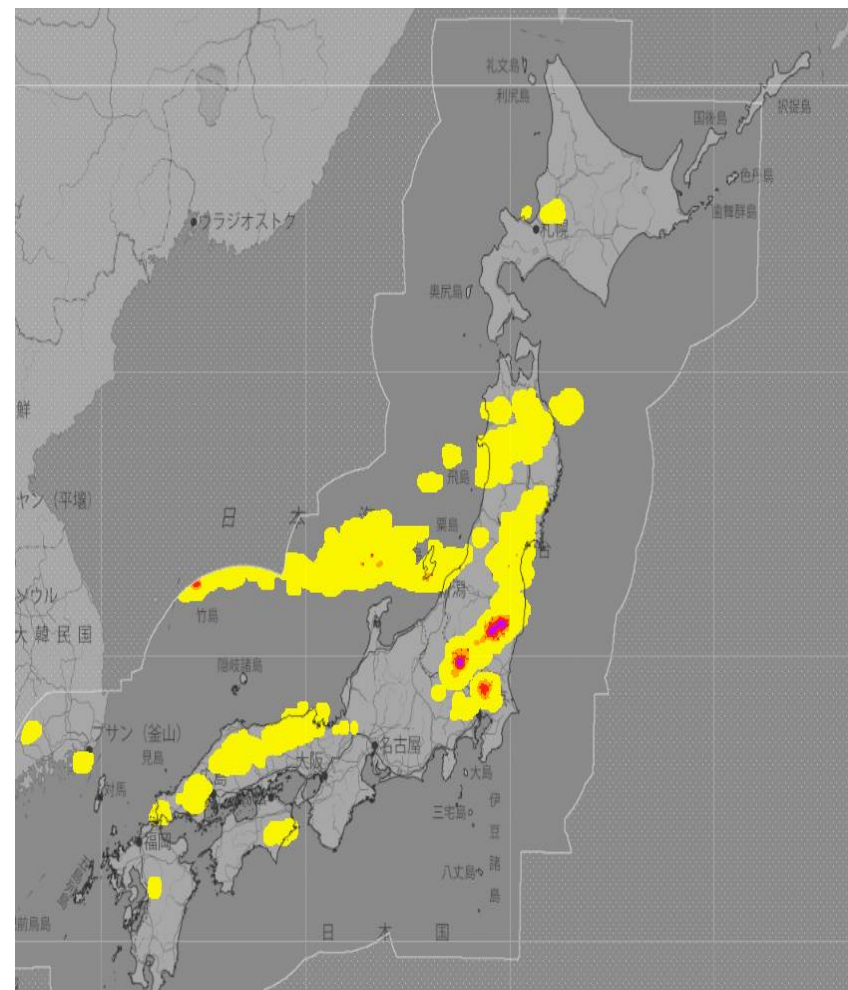


雷ナウキャストとは

雷ナウキャストは、雷の激しさや雷の可能性を1km格子単位で解析し、その1時間後（10分～60分先）までの予測を行うもので、10分毎に更新して提供します。最新のものは、[雷活動度（雷ナウキャスト）](#)で公開しています。

雷の解析は、雷監視システムによる雷放電の検知及びレーダー観測などを基にして活動度1～4で表します。予測については、雷雲の移動方向に移動させるとともに、雷雲の盛衰の傾向も考慮しています。

雷ナウキャストでは、雷監視システムによる雷放電の検知数が多いほど激しい雷（活動度が高い：2～4）としています。雷放電を検知していない場合でも、雨雲の特徴から雷雲を解析（活動度2）するとともに、雷雲が発達する可能性のある領域も解析（活動度1）します。



事故報告

(様式1)

群馬県教育委員会教育長 様
令和 第 年 月 号 日
群馬県立 _____ 学校 校長 _____

児童生徒の事故について(報告)
児童生徒の事故が発生したので、下記のとおり報告します。
記

1 事故の種類 ア 一般事故 ()
イ 交通事故

2 事故の分類 ア 学校管理下 ()
イ 学校管理下外

3 発生日時・発生場所
(日時) 令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日 (曜) ____ 時 ____ 分頃
(場所)

4 当事者学年氏名等
____ 学年 ____ 組 (氏名) _____ (____ 歳) (性別 ____)

5 負傷の程度

6 事故の概要

事故発生現場見取り図

事故発生状況(左図の説明)及びその要因

7 学校のとった措置

8 学校長所見

9 掲載新聞名

・事故発生 (一般事故・交通事故)

⇒ 報告書を提出

* 事故の概要

→ 活動内容、部活動名の記載

⇒ 学校体育係と連携

学校安全の取組

学校安全計画の策定・実施を通じて、児童生徒等が自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成するとともに、児童生徒等の安全を確保するための環境を整えることをねらいとしている



学校安全計画 (学校保健安全法第27条)



安全
教育

組織活動

安全
管理

- ・保健体育科、社会科、理科、生活科、技術・家庭科、総合的な学習の時間、特別活動や個別指導等における安全に関する指導 等



校内の協力体制・研修
家庭及び地域社会との連携
(学校保健安全法第30条)



- ・安全点検の実施
(学習環境の安全点検、避難経路の確認等)
- ・危険等発生時対処要領の作成と訓練の実施 (学校保健安全法第29条)
(各種災害における安全措置、不審者侵入時の対応等) 等

○学校安全に関する学校の設置者の責務 (学校保健安全法第26条)
→学校安全に関して学校の設置者が果たすべき役割の重要性に鑑み、取組の一層の充実を図るため、その責務を法律上明確化。

○学校環境の安全の確保 (学校保健安全法第28条)
→学校の施設・設備について、児童生徒等の安全確保の観点から支障がある場合に、校長等が遅滞なくその改善のための措置を講ずることを規定。

学校安全に係る各領域

生活安全→ 日常生活で起こる事件・事故災害、誘拐や傷害などの犯罪

交通安全→ 様々な交通場面における危険と安全

災害安全→ 地震、津波、火山活動、風水(雪)害等や火災、原子力災害

今後想定される新たな危機事象→ 学校への犯罪予告、周辺でのテロの発生・ミサイルの発射等

学校安全の取組

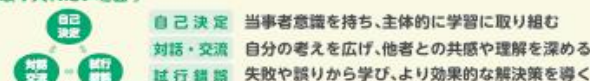
共通認識したいこと

自分事化 自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す！

幼稚園教育要領や学習指導要領の資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の育成を目指して、具体的な取組の例を示します。

- 《取り入れたい場面》を意識した問題解決的な学びを行いましょう。
- 教師は見守りつつ、適切な支援（意欲や目的意識を高める問いかけ、比較・分類・関連等を意識した発問等）を行いましょう。
- ※子供たちが好きなことを自由にしてよいということではなく、課題の解決に向け、友達と協議しながら自分たちの力でより良い方法を考えることができるようにすることが大切です。

《取り入れたい場面》



発達状況に応じて、「自分で考え、決める」割合が増えていきます。

ポイント

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて、環境の構成をしましょう。

●水遊びの場面（水遊びおもちゃ）



水が高いところから低いところに落ちる仕組みを利用した「くじらのおもちゃ」を用意して、見守ります。



子供たちが何度も試しながら、あきらめずに自分たちで、「くじらのおもちゃ」から水を出す方法を見付けることができました。

教科学習の基となる遊びが自然に行われます。

行事等



ポイント

活動自体が目的ではなく、自分たちで行事を作り上げていく意義を実感し、より良い社会を実現するために何ができるかという視点を持って生活できるように支援しましょう。

小学校

ポイント

「課題を自ら見だし、考える」場を増やし、自分で学びをつくる楽しさを実感できるようにしましょう。

●1年算数「ながさくらべ」の比較の仕方について考える場面



リボンや鉛筆等、比較に使える具体物を用意して、自由に使えるようにします。



子供たち同士で試行錯誤しながら、長さの比べ方を考えることができました。



総合的な学習（探究）の時間は、実社会や実生活の課題を解決する実践の場であり、そこでの振り返りが各教科等の学びに深まりと広がりを生み出すこととなります。

中学校

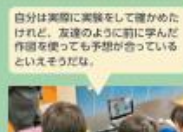
ポイント

自分で決定し、他者と交流しながら、友達と試行錯誤する場面を増やしていきましょう。

●1年理科「光の性質」の全身が動く鏡の大きさを考える場面



学習形態や学び方、解決の方法を生徒が選べるようにします。



様々な方法で考えたことを交流する良さを味わうとともに、光の性質を多面的に考えることができました。

総合的な学習（探究）の時間



ポイント

自らの生き方や社会の課題の解決に向けた探究的な学習となるように、単元・題材をデザインしましょう。

●英語コミュニケーション！課題について考察する場面

私たちの身近な地域の課題ってどんなことがあるかな？

Our Project
To work on social issues around you and to give a presentation in English

私たちの町は高齢化が進んでいるよね。

実社会における課題を自分事化し、分析・考察した上で、具体的な提案・解決策を英語でプレゼンテーションする単元をデザインします。

誰もが住みやすい町にするには、どうしたらいいかな？



ポイント

探究意欲（ワクワク感）を高められるような課題と出会う活動を設定したり、やりがいや達成感を味わえるよう、自分の思いを形にする場を設定したりしましょう。

変化の激しい社会を
自分の力で
歩んでいける人